

白鳥地域手袋・カバン袋物・ニット 製品産地の概況

細川 進
元家万枝

1. 産地の沿革

第1期——創設期（明治後期～第一次大戦前）

白鳥村出身の棚次辰吉が大阪で同郷の両児舜礼のメリヤス製造所で技術を習得して、明治32年に郷里に帰り、村長や教連寺の住職らの協力で“積善会”をつくり、女子工員10名を雇って手袋製造を行ったのが、当産地の出発点となった。

第2期——工場生産（一貫生産）、輸出志向期（第一次大戦～第二次大戦）

第一次世界大戦によって、イギリスはドイツから輸入していた手袋を日本に求めた。大正5年に、棚次辰吉商店が中心となって、「大阪手袋株式会社」を設立し、大阪に本社工場を置いて現在の白鳥町を中心に引田町、大内町など大川郡全域に工場を設置し、工場生産が進められた。そして、大正7年には26社で、73万ダースが生産され、昭和10～11年頃には87万9千ダースが生産され、輸出は3分の2以上の60万ダースに達した。しかし、この頃にはすでに大規模な工場経営が困難となり、製造工程を分業的に担当する下請工場が増加し、その数も250社に及び、白鳥町の大半の家庭が何らかの形で手袋生産にかかわっていた。しかし、第二次大戦中は輸出が停止され、大きな工場は閉鎖された。

第3期——工場生産／下請生産、輸出志向期（第二次大戦後～ドルショック前）

昭和23年頃からアメリカからの原料加工が再開され、昭和25～26年頃には戦前の生産水準に戻り、その後も順調に伸びてきた。しかし、大企業への労働力流出等により、下請生産への依存度が高まり、生産能力は伸び悩み、昭和44年度には注文に応じきれないほどの活況をみせ、出荷実績は920万ダース、153億

円, うち輸出は276万ダース(輸出比率30%), 61億2千万円(同40%)に達した。この間、日本手袋工業組合が昭和37年に設立され、加盟企業数は248社、従業員数約6,300名であった。これ以外に下請企業が550社、従業員2,400名、さらに相当数の家庭内職者が手袋製造に従事し、手袋産地の最盛期を謳歌した。

第4期——下請生産、内需転換、脱手袋導入期(ドルショック後～現在)

46年のドルショック以後、輸出は急速に低下し、輸出専業としてはほとんど採算が困難となり、産地をあげて内需転換を行い、高級品化やファッション化により、また革手袋に素材を転化し、あるいはスキー手袋、ゴルフ手袋、ドライブ手袋等のレジャー手袋に積極的に取り組み、内需拡大に一応成功した。また革手袋の縫製技術を生かしたショツピングバッグや編手袋からホームカバー、ニット製品等にも進出し、脱手袋化が進められた。そして、この間、工場一貫生産体制をとっていた企業の数も減少し、下請化がますます進んだ。

第5期——下請生産/海外生産/輸入、内需志向、合成産地形成期(現在)

現在では、手袋内需転換も一応行きつくところまで進み、かつての輸出産地の面影はない。逆に、発展途上国からの輸入品の増大によって、国内市場をすら脅かされている。他方、脱手袋部門では、袋物やカバン、あるいは婦人、少年少女用下着では、一定のシェアを確立し、産業基盤を確立してきた。したがって、手袋、カバン・袋物、ニットの合成産地としての色彩が強いが、三者の間には相互連携はほとんどなく、産地の一体感に乏しい。生産面では、下請生産が中心となり、かわって工場生産の利点を海外に求める傾向があらわれ、輸入も増大している。

2. 産地の構造的特色

(1) 手袋、カバン・袋物、カバー・ニットの合成産地

当産地は手袋の製造輸出を中心に発展してきたが、輸出市場の縮小に対応するために内需に転換するとともに、内需の新分野を手袋製造技術を生かした関連分野に求めてきた。すなわち、革手袋の縫製技術を生かした革カバン・袋物および横編手袋の技術を生かしたカバー・ニット製品への進出であり、その結果、現在では手袋を中心にカバン・袋物、およびカバー・ニットを加えた合成産地としての性格を持つに至っている。

図表1 出荷額構成比(昭和54年度)

(%)

手 袋				脱 手 袋		
61.9				38.1		
縫手袋	革手袋	合皮・ ビニール 手袋	編手袋	カバン 袋物	カバー・ニット	ニット
14.7	29.6	8.9	8.8	13.4	24.7	**64.8
*23.7	*47.8	*14.5	*14.2	**35.2	10.8	13.8
					**28.4	**36.3

* は手袋部門内の, **は脱手袋部門内の構成比 (資料: 日本手袋工業組合)

昭和54年度の産地規模は、出荷数量が7,440,000ダース（うち輸出は3.5%の262,000ダース）、出荷額が361億9,899万円（うち輸出は7.2%の26億4,198万円）である。

手袋は、用途別では衣服用と作業用に分けられるが、当産地は出荷額で全国業界の40.4%を占め、特に衣服用ではほぼ90%に近いシェアで、衣服用手袋に特化している（別表11参照）。製造方法や素材からは、縫手袋（メリヤス、コットン、ジャージ、布の縫製品）、革手袋（牛皮、羊皮の縫製品）、合皮・ビニール手袋（合成皮革、ビニールの縫製品）、編手袋（毛糸、綿糸、ナイロン糸の横編品）に分類される。このうち、最近では革手袋の比重が高くなり、昭和54年度出荷額では手袋部門の約2分の1（1,071,000万円、47.8%）に達している。あとは、縫手袋（530,213万円、23.7%）、合皮・ビニール手袋（323,642万円、14.5%）、編手袋（318,787万円、14.2%）といった内訳で、縫手袋がやや多いが、ほぼ同比率で残り半分を分けあっている（別表1）。

脱手袋部門としてのカバン・袋物およびカバー・ニットも大きく成長している。カバン・袋物では、ショッピングバッグの生産が昭和38年頃より一部企業によって始められたが、その後順調に生産が伸び、出荷額で昭和48年度には母体である対革手袋比で12.1%、産地全体では4.7%に達し、昭和54年度には485,100万円で、対革手袋比で45.3%脱手袋部門の35.2%、産地全体の13.4%に増加し、毎年順調に増加して、産地の一翼を担うまでに成長している。また、カバーは昭和34～35年頃から、ニットは昭和44～45年頃から生産が始められたが、出荷額は昭和40年度には母体の編手袋の1.6倍に成長し、昭和48年度には7.1倍にも達したが、昭和54年度には編手袋の成長もあり、2.8

倍となっている。産地全体での比重は、上記年度ごとに11.1%、25.6%、24.7%となり、その成長は著しい。昭和54年度出荷額はカバーが391,605万円、ニットが500,516万円で、脱手袋部門における比率は前者が28.4%、後者が36.3%、産地全体での比率は前者が10.8%、後者が13.8%であり、両者で産地全体の4分の1に達している。(別表1参照)

ただ、カバン・袋物もカバー・ニットも全国業界では後発産地であり、昭和53年度出荷額での全国シェアは、前者は2.1%、後者は3.4%にすぎない。しかし、とくにカバン・袋物は52年度の1.6%からみると、3割程度増大している。

図表2 カバン・袋物及びカバー・ニットのシェア (昭和52・53年度)

項目 品目	産地出荷額* (百万円)		全国出荷額 (百万円)		全国シェア(%)	
	52年	53年	52年	53年	52年	53年
カバン・袋物	3,600	4,410	** 231,504	** 210,905	1.6	2.1
カバー・ニット	9,951	9,372	*** 286,536	*** 277,791	3.5	3.4

資料： * 日本手袋工業組合

** 工業統計表 (カバン・ランドセル・ケース・ハンドバック・袋物等の計)

*** 工業統計表 (横編メリヤス外衣及び同下着の計)

(2) 下請内職生産型産地

手袋の製造工程は図表3に示したとおりであり、ミシン、裁断機、横編機以外に機械らしいものはなく、ほとんどの工程が手作業に依存する部分が多く、極めて労働集約的性格の強い生産構造である。しかも、工程が細分化されているため、必ずしも工場生産をする必要がなく、さらに需要の季節性および不確実性という要因も加わって、生産の下請化・内職化が進展してきたが、高度経済成長以後は賃金の高騰と若年労働力の大企業への流出が、この下請化、内職化に拍車をかけている。現在、縫製工程のほとんどを中心に仕事量の80%程度が下請化・内職化されており、製造企業の自社工場では見本作成、裁断、仕上、検品、包装等が行われるにすぎなくなっている。縫製

は数年の経験があれば一応熟練しうるため、製造企業の従業員が企業からミシンを借受け、下請として独立することが多かった。また、主婦の家庭内職も容易に始めることができた。しかし、最近ではこれら下請業者は積極的にミシンを購入して、実質的には生産の主体者の役割を果たしている。この下請関係には複雑な経路があるため、下請業者数を確実に把握することは困難であるが、組合推定ではおよそ500事業所とみられている。

このように、当産地では工場一貫生産はつとに減少し、下請依存型産地を形成している。しかし、人件費の高騰に伴う加工賃の増大によってまた下請生産企業への新規労働力の参入難等によって、下請生産自体も困難となってきたり、その解決を現地法人による海外工場生産ないし輸入に求める試みが行われている。

(3) 海外工場生産・輸入基地への胎動

他方、工場での一貫生産の長所を生かしながら、安価な労働力を求めて海

図表3 手袋の製造工程

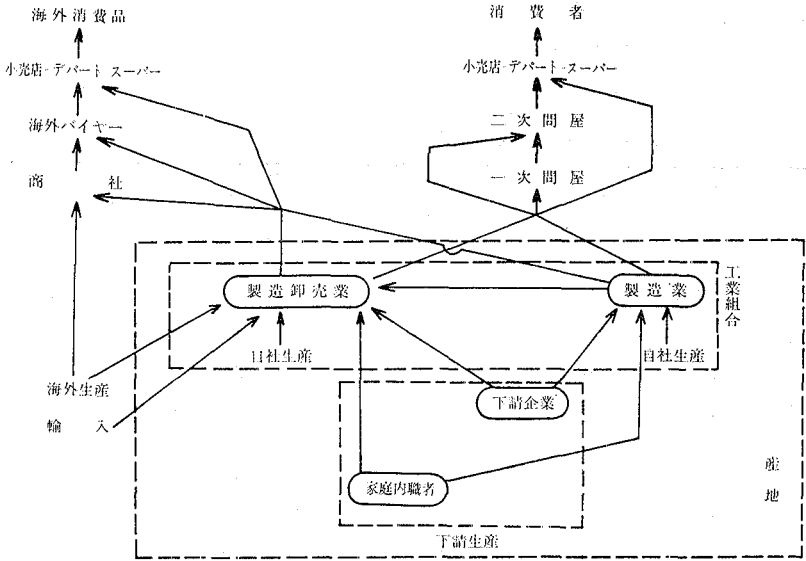


図表4 品目別・内需・輸出別出荷額(昭和54年度)

	内 需		輸 出		合 計		部 門 計	
	金額 (万円)	構成比 (%)	金額 (万円)	構成比 (%)	金額 (万円)	構成比 (%)	金額 (万円)	構成比 (%)
縫手袋	324,915	16.3	—	—	324,915	14.5	—	—
衣 作	194,000	9.8	11,298	4.4	205,298	9.2	530,213	23.6
衣 革	183,521	9.2	19,903	7.8	203,424	9.1	—	—
手 ス	303,174	15.3	152,176	60.0	455,350	20.3	1,555,136	69.3
手 袋	357,300	18.0	53,962	21.1	411,262	18.3	—	—
合 計	309,620	15.6	14,022	5.5	323,642	14.4	323,642	14.4
編 手 袋	314,840	15.8	3,947	1.5	318,787	14.2	318,787	14.2
手 袋 小 計	1,987,370	100	255,308	100	2,242,678	100	2,242,678	100
カ バ ン ・ 袋 物	485,100	35.5	—	—	485,100	35.2	485,100	35.2
カ バ ン	382,715	28.0	8,890	100	391,605	28.4	—	—
ニ ッ ト	500,516	39.6	—	—	500,516	36.3	892,121	64.8
カバ ン ・ 袋 物 ・ カバ ン ・ ニ ッ ト 小 計	1,368,331	100	8,890	100	1,377,221	100	1,377,221	100
合 計	3,355,701	100	264,198	100	3,619,899	100	3,619,899	100

(資料・日本手袋工業組合)

図表5 産地の構造



外で現地法人を組織し、工場生産を行う企業も多くなってきた。昭和56年1月現在、4社6工場が海外進出しており、韓国に2社4工場、台湾に2社2工場となっている。総生産能力は革手袋・合皮手袋65,000ダース、ゴルフ手袋8,300枚程度（ともに月産）である。そのうちゴルフ手袋、スキー手袋の大半は生産地から直接アメリカ等に輸出されているが、わが国に輸入されるものも相当数に達しているようである。また、直接に工場を持たない企業でも、現地企業との提携を強化し、協力工場を持つ（3社）か、あるいは直接輸入を行い、国内生産力の減少を補おうとしているので、今後ますます輸入量の増加が予想される。現在進出企業を含めて32社が輸入を行っている。こうした傾向は今後も増大すると予想され、この海外工場生産・輸入体制への胎動は、下請生産体制の崩壊を促進する要素を含んでいるといえるであろう。

(4) 地域別企業分布

手袋製造業者の地域別分布をみると、全県下13市町にまたがっている。そ

のうち、集積度の大きいのは白鳥町(199社)、引田町(119社)、大内町(104社)の3町で、ここに全業者の75.2%が集中している。また、出荷額でもこれら3町で総出荷額の90%以上を占め、まさに産地の中核地域となっている(別図1参照)。

図表6 集 積 の 状 況 (昭和52年度)

市 町	企 業 数	構 成 比 (%)	全 国 比 (%)	出 荷 額 (百万円)	構 成 比 (%)	全 国 比 (%)
白 鳥 町	199	35.5	30.9	11,063	48.1	42.3
引 田 町	119	21.2	18.5	4,420	19.2	16.9
大 内 町	104	18.5	16.1	5,515	24.0	21.1
高 松 市	25	4.5		534	2.3	
三 木 町	23	4.1		357	1.6	
津 田 町	23	4.1		164	0.7	
大 川 町	22	3.9		297	1.3	
志 度 町	18	3.2		289	1.3	
長 尾 町	12	2.1		100	0.4	
寒 川 町	10	1.8		63	0.3	
坂 出 市	3	0.5		114	0.5	
綾 南 町	2	0.4		4	—	
多 度 津 町	1	0.2		96	0.4	
合 計	561	100	87.1	23,016	100	87.9
全 国			100			100

(料：日本手袋工業組合)

(5) 生産動向および輸出動向

① 全体的動向 (別表2, 3, 4参照)

産地全体の生産動向を昭和45年度以降の出荷金額および出荷数量の推移でみると、出荷金額は約2倍に増加しているが、出荷数量は逆にやや減少していることが大きな特徴である。まず出荷金額は、昭和45年度を100(1,772,295万円)とすると、48年度には約1.6倍、50年度には1.7倍、53年度には2.1倍(3,728,978万円)、54年度には2.04倍(3,619,899万円)に達し、順調に成長しているように見える。しかし、51~53年度の出荷額はい

図表7 手袋等出荷の推移 (単位%;45年度=100)

年 度		4 8	5 0	5 3	5 4
出 荷 数 量	輸 出	54	26	20	10
	内 需	139	112	124	116
	計	114	86	93	85
出 荷 金 額	輸 出	73	54	57	35
	内 需	222	261	323	328
	計	159	173	210	204

(資料：日本手袋工業組合)

いずれも370億円台に停滞して伸び悩んでいたが、54年度には362億円に低下しており、さらに、インフレ要因を考慮に入れると決して成長しているとはいえない。このことは出荷数量の減少となってあらわれている。すなわち、昭和45年度の出荷量を100(8,766千ダース)とすると、48年度には一時増加(114)したものの、50年度には86と落ち込み、51年度以降はもちなおして90台で推移していたものの、54年度には再び85となっている。このことから明らかなのは、過去10年間の前半には、原材料費や賃金コストの上昇分が含まれているとはいえ、高級品化による単価アップ等によって出荷金額の増加を生み出していたが、最近数年間はとくに暖冬で需要が停滞し、高級品志向も行詰り、困難な状況を迎えているということである。そして、こうした傾向は今後さらに強まると予想される。

次に特徴的なことは、出荷金額においても、出荷数量においても輸出が激減し、これを内需によってカバーしようとしていることである。輸出最盛期(昭和38年度)には手袋生産量の58%にあたる325万ダースの輸出実績があったが、ドルショックを引金とした円高、発展途上国の追上げの激化等で手袋輸出は激減した。そこで、高級品輸出に努力し、また国内販路の開拓を行った結果、46年頃には旺盛な内需に支えられ、産地としての活力を維持してきた。しかし、その後も発展途上国の追上げの激化等輸出環境の悪化で、輸出量は昭和45年度の水準(2,588千ダース)に対し、48年度には2分の1、50年度には4分の1、53年度には5分の1(523千ダース)と大きな減少をみせている。また、輸出金額は、この間に輸出平均単価が4倍に

なったためにそれほどの落込みはみせていないものの、53年度は対45年の半分近い水準に落込んでおり、また総出荷額に占める輸出金額の割合をみても（別表7）、45年度には42.3%であったものが順次減少し、53年度にはわずか11.5%になっている。そして、54年度の輸出受注期であった53年10月頃は円高がひどくて（10月31日の175円90銭をピークに180円前後）受注困難となり、54年度輸出は、対前年比では数量が2分の1（262千ダース、50.1%）、金額が3分の2弱（264,198万円、61.7%）、対45年比では数量が10分の1、金額が3分の1強と大幅に減少し、総出荷額に占める割合もついに10%を割り（7.2%）、もはや輸出産地とは言えない状態にある。このような輸出の減退傾向に歯止めをかけることは相当困難であろう。

これに対して、内需においては、出荷額は45年度（1,022,485万円）に比べて50年度は2.6倍、53年度は3.2倍、54年度は3.3倍（3,355,701万）円と増加し、出荷数量も7,000千ダース水準（対45年比は1.2~1.3倍）を維持しており、輸出の不振を補っている。

② 品種別動向（別表5~8参照）

品種別の特徴としては、地盤沈下の最も著しいのは、合皮・ビニール手袋である。これは出荷数量のみならず出荷金額も減少しており、その原因は輸出の激減にある。すなわち、54年度の輸出数量は対45年度のわずか1%、輸出金額でもわずか4%にまで激減している状態である。これに対して内需は、数量では約1.4倍、金額では6倍強に増加しているが、絶対量が少なく（54年度出荷金額309,620万円）、輸出不振をカバーするには至っ

図表8 合皮・ビニール手袋出荷動向

項目		年度			54/45(%)	産地構成比
		45	53	54		
出荷数量 (千ダース)	輸出	1,500	36	14,022	4	0.2
	内需	330	635	309,620	625	6.1
	計	1,830	671	323,642	89	6.3
出荷金額 (万円)	輸出	315,000	22,230	19	1	0.4
	内需	49,500	320,675	452	137	8.5
	計	364,500	342,905	471	26	8.9

（資料：日本手袋工業組合）

ていない。ただ、最近では合成皮革も品質の優れたものが供給されるようになり、今後の持直しが期待される場所である。

数量では減少しているが、金額では増加しているのは縫手袋および皮手袋である。20年以前は縫手袋も輸出がさかんで（昭和30年度での輸出構成比は数量で71.5%，金額で77.2%），産地全体に占めるウエイトも大きかったが，以後減少をつづけ，今ではほとんどなくなった（54年度の輸出構成比は数量0.3%，金額0.5%）。また内需についても，金額は単価アップで対45年1.7倍強に増加しているが，数量では4分の3程度に減少しており，衰退傾向にある。

図表9 縫手袋出荷動向

項目		年度			54/45(%)	産地構成比
		45	53	54		
出荷数量 (千ダース)	輸出	430	69	37	9	0.5
	内需	3,460	2,574	2,671	77	35.9
	計	3,890	2,643	2,709	70	36.4
出荷金額 (万円)	輸出	73,021	9,166	11,298	15	0.3
	内需	307,260	506,700	518,915	169	14.3
	計	380,281	515,866	530,213	139	14.6

(資料：日本手袋工業組合)

革手袋は，数量では輸出減を内需増によって補う形となっており，ほぼ横ばいの状態である。54年度は金額面では輸出は0.7倍，内需は2.2倍（対45年比）となっており，産地全体に占めるウエイトも29.6%と大きい。特に，輸出面では高級品化等により，やや持直しの傾向にある。しかし，輸

図表10 革手袋出荷動向

項目		年度			54/45(%)	産地構成比
		45	53	54		
出荷数量 (千ダース)	輸出	430	318	117	27	1.6
	内需	510*	507	512	100	
	計	940	825	629	67	
出荷金額 (万円)	輸出	322,500	387,372	226,041	70	6.2
	内需	379,440	772,499	843,995	222	23.3
	計	701,940	1,159,871	1,070,036	152	29.6

*45年度内需は袋物を含んでいる。

(資料：日本手袋工業組合)

出、内需ともにその環境は非常に厳しく楽観視できる要因はなくて、その産地全体に占めるウエイトからみて、革手袋の動向が産地全体に及ぼす影響は大きいものがある。

数量的にも金額的にも増加しているのは、編手袋およびカバー・ニット製品である。編手袋は、数量では1.8倍、金額では5.3倍（対45年比）と大きな増加をみせている。しかし、総出荷金額に占めるウエイトは8.8%で、その推移をみても51~54年度にかけてはほぼ横バイ状態であり、絶対量も少なく、産地全体への貢献度は大きいといえない。なお、輸出はほとんどない。

図表11 編手袋出荷動向

項目		年度				産地 構成比
		45	53	54	54/45(%)	
出荷数量 (千ダース)	輸出	40	4	19	48	0.3
	内 需	313	743	616	197	8.3
	計	353	747	636	180	8.6
出荷金額 (万円)	輸出	7,240	544	3,947	55	0.1
	内 需	53,125	331,600	314,840	593	8.7
	計	60,365	332,144	318,787	528	8.8

(資料：日本手袋工業組合)

これに対し、編手袋からの多角化の一環として生まれたカバー・ニット製品は、数量では1.7倍、金額では3.4倍と増加し、増加率自体は編手袋に及ばないが、前述のとおり産地全体に占めるウエイトの伸びは大きく、54年度では出荷金額で革手袋に次ぐ第2位にまで成長している。なお、両品目とも輸出はほとんどない。

図表12 カバー・ニット製品出荷動向

項目		年度				産地 構成比
		45	53	54	54/45(%)	
出荷数量 (千ダース)	輸出	189	95	68	36	0.9
	内 需	1,555	3,095	2,815	181	37.9
	計	1,744	3,190	2,883	165	38.8
出荷金額 (万円)	輸出	32,049	8,696	8,890	28	0.2
	内 需	233,160	928,496	883,231	379	24.4
	計	265,209	937,192	892,121	336	24.6

(資料：日本手袋工業組合)

革手袋の素材と縫製技術を生かした分野のカバン・袋物の成長も大きい。出荷数量は50年度を除けば、ほぼ10万ダース程度で横ばいであるが、出荷金額は対48年度比で、51年度には2.7倍、54年度には3.7倍となり、産地出荷額の13.4%を占めるにいたった。

図表13 カバン袋物（内需）出荷動向

項目	4 8	5 3	5 4	54/48(%)	産地構成比
出荷数量 (千ダース)	120	105	110	92	1.5
出荷金額 (万円)	132,000	441,000	485,100	368	13.4

③ 輸出先別動向

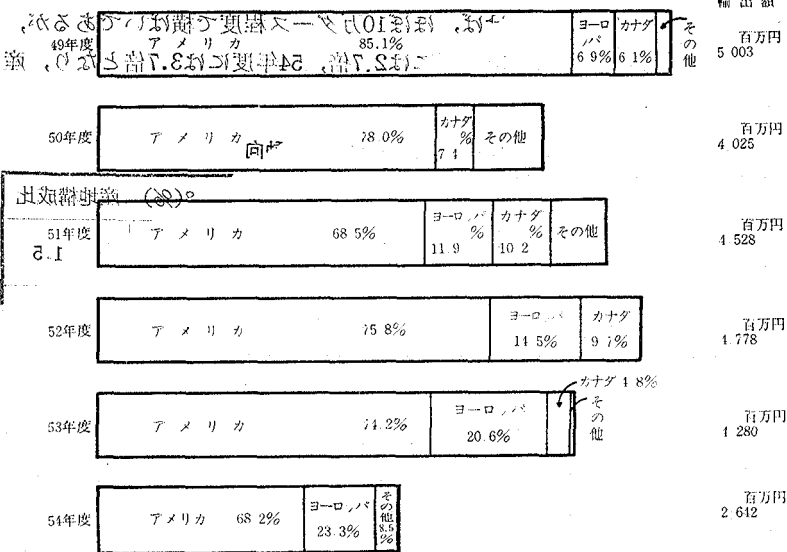
このように、各品目とも輸出は減退傾向にあるが、全体としては、30年には輸出が3分の2を占めていたのに、41年には3分の1と逆転し、54年には10%を切っている。その仕向地をみるとアメリカが圧倒的に多く、53年では全輸出額の4分の3近くを占めており、次いでヨーロッパ（20.6%）、カナダ（4.8%）の順となっている。その推移をみると、あくまでアメリカ主体ではあるが、ヨーロッパの比率が徐々に上昇しており、仕向地域も中南米、アフリカ、東南アジア、太平洋等への広がりをみせている。共産国への輸出は皆無である。

図表14 手袋輸出・内需別出荷額構成比の推移

30年	63.3% (輸出)	36.7% (内需)
41年	36.5	63.5
46年	42.0	38.0
51年	12.1	87.9
54年	7.3	92.7

(資料：日本手袋工業組合)

表 15 産地の別手袋輸出額の推移



(資料：香川県輸出入実態調査)

3. 産地をとりまく経済情勢

(1) 需要動向

手袋需要の一般的動向を家計調査からみると、1世帯当りの購入数量は昭和38年から49年までは1.3組から1.6組程度で推移していたものが、50年以降増加し、52年には2.0組、54年には2.6組まで増えており、しかも46年以降は確実な増加傾向を示しており、手袋需要は近年伸びているといえる。このことは、金額面でも、47年の292円から50年の486円、53年の697円と大きく上昇したことからわかるが、54年度には604円と低下している。(別図2参照) この一般的な傾向とは逆に、当産地においては需要低下の感が強いのは、内需転換による供給能力の増大と、当産地以外の商社および一部の産地業者による輸入増大等の要因が産地を圧迫していることが起因していると思われる。

手袋本来の需要は防寒的需要であるが、近年の暖房施設の普及、自家用車利用等の生活様式の変化の影響を受け、需要は頭打ち状態である。そして、

何よりこれは“冬の寒さ”に大きく左右される性格を有しており、ここ数年
来の暖冬が需要の停滞に拍車をかけている。このことは、衣服用手袋で90%
近いシェアを占める当産地の出荷動向をみても明らかである。ただ、55年冬
期には寒さがきびしいため産地はひさかたぶりの活況を呈している。

衣服用手袋の分野では、この防寒的需要にかわって、近年ファッション的
需要が高まってきており、特に外衣とのトータル・ファッションの一環とし
て手袋が選択される傾向が強まっており、需要構造はより高度化、多様化し
てきている。そして、今後も防寒的需要の増大を期待することはむつかしい
が、ファッション的需要は続くものと思われる。

これに対し、最近とみに需要が高まっているのはスポーツ用手袋である。
衣服用手袋需要では生活様式の変化がマイナス要因となっているのに対し、
スポーツ用手袋需要は、生活様式の変化、生活水準の向上がプラス要因とな
って働いている。すなわち、生活水準の向上に伴い余暇生活の重要性が認識
されはじめ、中でもスポーツの実施率が最近急速に上昇している。特に、低
成長時代においては、時間消費型、自然・健康志向型のレジャーにウエイト
が移る傾向にあり、スポーツ実施率をみても（日経流通新聞）、男では1位が
「ゴルフ」、2位が「スキー」、3位「野球」の順であり、女では「スキー」
がトップとなっており、こういった性格を有した“手袋を使用する”ものが
上位を独占している。（別表9参照）

ゴルフ手袋は、図表27のアンケート調査をみてもわかるとおり、消耗品であ
り、800万人以上といわれるゴルフ人口も年5%程度の成長が予想されてお
り、その需要は今後とも期待できるものであろう。また、スキー手袋もゴル
フ手袋ほどの消耗性はないにしても、1千万人以上といわれるスキー人口お
よびその成長性からみて、需要量の増大は十分期待できよう。そして、これ
らスポーツ用手袋においても、衣服用手袋と同様、トータル・ファッション
の一環として選択され、需要の高度化、多様化傾向は今後ますます強まるも
のと思われる。

カバン・袋物の分野でも、実用性よりはファッション性の高いものの需要
が多くなっている。家計調査では、手提げカバンについては購入数量が低下
しているが、金額は上昇し、単当たりの伸び率は非常に大きくなっている。

図表16 アンケート調査結果（ゴルフ手袋）

ハンディ キャップ	一年間に購入 する手袋数量	購入した手袋 の使用期間	ゴルフ手袋を選ぶ ポイント	手袋の ブランド	購入場所
10 未 満	(一人平均) 12.9枚	(最も多い期 間) 1ヶ月未満	1位 フィット性 2位 色 3位 素材	(決めている 割合) 43%	ゴルフショップ ゴルフ場売店
10～20未満	6.4枚	2ヶ月	1位 フィット性 2位 色 3位 丈夫さ	(選択する) 割合 29%	ゴルフショップ ゴルフ場売店
20～30未満	4.5枚	3ヶ月	1位 フィット性 2位 色 3位 丈夫さ	(") 20%	ゴルフショップ デパート
30 以 上	4.1枚	3ヶ月	1位 フィット性 2位 色 3位 価 格	(") 30%	ゴルフショップ デパート

(日本手袋工業組合調べ 9ゴルフ場会員より)

また、ハンドバッグおよび「他のバッグ」についても金額は増加しているが、数量は前者では53年、後者では50年をピークに低下傾向にあり、手提げカバンほどではないが、単価は上っている。ハンドバッグは、本来女性のおしゃれ道具としてファッション性が高いものであるが、近年はTPOに合わせた多様化、個性化によって需要は高まっており、当産地のカバン・袋物についてもこれと同様の傾向がみられ、主要商品の一つであるショッピングバッグは多種、多様化し、本来のショッピング用に加えて、カジュアル的製品の需要が高まり、ハンドバッグに近似した性格をおびてきている。(別図3～5参照)

ニット製品については、多くはファッション的需要であり、不安定要素も大きい、需要の絶対量は大きい。特に外衣・中衣はファッション性が強く、需要は高度化、多様化している。家計調査では、45～46年頃までは支出金額、購入数量とも増加傾向にあったが、男子セーターは46年、婦人セーターは47年、男子シャツ・婦人シャツは48年、子供セーターは49年をピークとして購入数量は減少しており、品目によって需要動向は大きく異なっている。ただ、支出金額は高級品志向を反映していずれも上昇を続けてきたが、ここ数年をみると、婦人シャツのみ上昇傾向が強く、男子シャツ・婦人セーター・子供セーターはほぼ横ばい、男子シャツは54年には低下しており、消費の停滞が

うかがえる。当産地のニット製品は婦人、子供用の下着およびセーターであるが、下着は防寒用の比較的特殊なものが多く、近年需要は減少している。

(別図6～13参照)

(2) 供給動向

工業統計の出荷金額から全国的な供給動向をみると表のとおりである。衣服用手袋では、本県のシェアが90%に近いので、その動向は前述したとおりであるが、昭和53年の出荷額は21,935百万円に対45年15.6%程度の伸びしか示していない。これは絶対量の最も多い革手袋に対45年で15%程度減少しているためで、メリヤス縫手袋は対45年2.4倍、メリヤス編手袋は1.6倍と増加している。産地別のシェアをみると、衣服用革手袋では本県が89.3%と圧倒的に多く、東京(3.4%)、兵庫(1.6%)、奈良(0.8%)と続いている。メリヤス編手袋は、本県のシェアが73.4%であり、愛知が18.3%と続いている。また、メリヤス縫手袋は本県が92.8%と圧倒的である。

作業用手袋は、53年出荷金額は32,283百万円、対45年2.0倍の伸びである。品種別にみても、メリヤス手袋、革手袋ともに2.0倍程度の伸びである。産地別シェアみるとメリヤス手袋では愛知が32.0%と1位であり、2位が和歌山(10.0%)、3位広島(9.8%)の順で、本県は4位(6.5%)となっている。

図表17 手袋出荷金額の推移(全国)

(百万円)

品目 年	衣服用手袋				作業用手袋		
	メリヤス 縫手袋	メリヤス 編手袋	革手袋	計	メリヤス 手袋	革手袋	計
45	2,483	2,677	13,820	18,980	12,804	3,197	16,001
46	2,651	3,161	13,864	19,676	14,540	4,328	18,868
47	2,945	2,453	12,658	18,056	15,742	3,903	19,645
48	2,806	2,031	11,782	16,619	23,510	6,063	29,573
49	3,622	2,050	11,709	17,381	23,543	7,647	31,190
50	4,229	2,419	12,230	18,938	19,756	5,585	25,341
51	4,843	3,477	12,541	20,861	21,786	5,753	27,539
52	5,508	4,282	13,079	22,869	23,801	6,136	29,937
53	6,008	4,209	11,718	21,935	25,771	6,512	32,283

(資料：工業統計品目編)

また革手袋では兵庫がシェア58.6%を占めトップで、本県は17.2%、第2位の地位にあり、3位奈良(9.1%)、4位東京(5.7%)の順となっている。しかし、本県の場合、分類上スキー手袋が含まれており、実際には作業用革手袋は本県においてほとんど作られていない。(別表10,11参照)

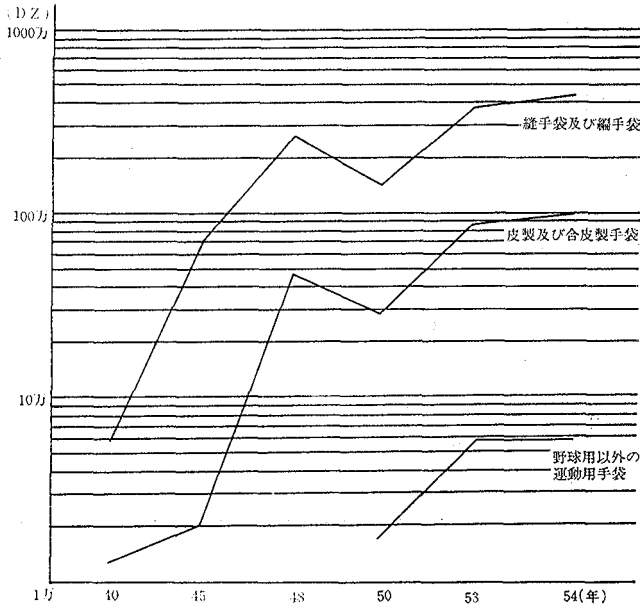
手袋以外のものについてみると、カバン・袋物では53年の全国出荷額は245,739百万円で対45年2.68倍と順調な伸びを示している。産地別シェアをみると、東京(33.8%)、大阪(19.7%)、兵庫(10.9%)、埼玉(4.6%)、愛知(4.6%)の上位5産地のシェアが圧倒的で、これらで73.6%に達している。本県は3,788百万円で、第9位(1.5%)に位置している。品目別にみると、本県で出荷額の最も多いのは「その他の袋物」で2,105百万円、シェア3.3%、次いで「なめし革製ハンドバッグ」(1,683百万円2.9%)であるが、両品目とも上位4産地のシェアが圧倒的である。しかし、産地別の出荷金額の伸び率をみると、本県のカバン袋物は対45年10.8倍と群を抜いており、今後の対応によってさらに成長が期待できる分野といえる。(別表12,13参照)

また、ニット製品についてみると、横編メリヤス外衣は53年出荷額259,453百万円で対45年1.6倍の伸びを示しているが、対前年比ではわずかに減少している。産地別シェアをみると大阪(15.9%)、新潟(15.3%)、愛知(9.9%)、東京(9.7%)山形(9.5%)等が上位を占めており、本県はシェア1.3%にすぎず、第14位に位置している。また上位産地のうち、新潟、山形の後発産地の伸びが著しかったが、53年ではやや伸びなやんでいる。本県で大きいのは少年少女用外衣で2,280百万円(6.6%)であるが、付加価値の大きい婦人用外衣では975百万円(0.7%)と上位産地との格差は大きい。横編メリヤス下着については、対45年1.4倍と外衣とはほぼ同様の伸び率である(前年比では落こみは大きい)が、出荷金額は外衣の1割以下である。産地別にみると大阪が44.0%と群を抜いており、本県は9.3%で、兵庫(11.3%)について第3位を占めている。品種別にみても大阪のシェアが大きい。本県は婦人用と少年少女用が主体で、それぞれ14.4%、14.1%のシェアを占めている。そして対45年の伸び率も4.1倍と大きい。なお、本県にはこの外に「その他のくつ下」(ホームカバー)があり、その出荷金額は4,313百万円ある。(別表14~17参照)

(3) 輸 入 動 向

手袋の輸入は、昭和45年ごろより急速に増加している。輸入仕入地はイタリアおよび韓国、台湾、中国である。イタリアからの輸入が増大したものは、高級品である「毛皮貴金属付きの革製および合皮製手袋」である。これは昭和41年にはわずか0.8百万円であったものが、47年ごろより増加し、54年には85.4百万円と実に106.8倍になっている(昭和47、49年は韓国からの輸入が大きい)。これに対して、韓国、台湾、中国からの輸入が大半を占めるのは、縫手袋および編手袋である。この内、当産地に関連する「縫製した綿製手袋」および「縫製したその他の手袋」(衣服用と推定)は、昭和41年には60.0百万円(この年は軍手と推定される編み上げた綿製手袋とあわせて集計されている)であったものが、46年および51年に大きく増大し、54年には2419.3百万円と40.3倍になり、総輸入量(金額ベース)の20%程を占めている。また、これら四カ国からの輸入がともに増大している品目は、「その他の革製および

図表18 手袋輸入数量の推移



合皮製手袋」である。これは、昭和41年に47.3百万円であったものが、漸次増加を続け、48年に急増し、54年には2,571.4百万円で54.4倍に達している。このうち、特に発展途上国からの輸入品は、内需に転換した当産地の製品と競合し、国内での供給過剰を促進し、乱売の一因となっている。(別表18参照)

(4) 雇 用 動 向

県の工業統計から従業者数の推移をみると、昭和42年には全体で6,300人近くいたものが、54年には4,382人と4割ほど減少している。特に、手袋部門は42年の半分にまで落込んでおり、明らかな減少傾向を示している。これに対し脱手袋部門は54年では対42年で3倍近い増加を示し、全体の3割以上を占めるまでになっており、手袋部門の従業者が脱手袋部門へ流れていることがうかがえる。

当産地は、従来相対的に労働力が豊富な地域であり、これを基盤として労働集約的な手袋産地が形成されてきたのであるが、このような従業者の減少傾向は、ひとつには下請化、家庭内職化の進展による企業内従業者の減少(下請企業、家庭内職の多くは統計上表われない)、またひとつには海外進出による産地内生産規模の縮小等が原因していると思われるが、最も大きな要因としては、新規労働力の補充、特に若年労働力の補充がほとんど行われていないことがあげられる。そして、これによる従業者の老令化は深刻な問題となっている。ちなみに、49年時点での年令別構成をみると、表のとおり35～44才および45～54才層に集中している。その後、若年労働力の補充はほと

図表19 従業者数の推移

年	42	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	54/42
手袋	5,799 (92.2)	4,628 (86.3)	4,883 (84.3)	4,218 (78.4)	4,188 (76.4)	3,572 (73.1)	3,204 (71.6)	3,032 (68.0)	3,120 (68.6)	3,039 (65.7)	2,893 (66.0)	0.50
ニット・カバン・袋物	494 (7.8)	736 (13.7)	912 (15.7)	1,160 (21.6)	1,294 (23.6)	1,314 (26.9)	1,272 (28.4)	1,428 (32.0)	1,428 (31.4)	1,588 (34.3)	1,489 (34.0)	3.01
計	6,293 (100)	5,364 (100)	5,795 (100)	5,378 (100)	5,482 (100)	4,886 (100)	4,476 (100)	4,460 (100)	4,548 (100)	4,627 (100)	4,382 (100)	0.70

(資料：香川県工業統計)

(注) 手袋は「メリヤス手袋製造業」「革製手袋製造業」の計
 ニット、カバン・袋物は「横編メリヤス製造業」「カバン製造業」「袋物製造業」の計

図表20 常用労働者の年令別構成

性別		男	女	計
20才未満		8 (2.0)	22 (4.7)	30 (3.5)
20～24才		20 (5.0)	97 (20.7)	117 (13.5)
25～29才		84 (21.2)	62 (13.2)	145 (16.7)
30～34才		91 (22.9)	52 (11.1)	143 (16.5)
35～44才		115 (29.0)	61 (13.0)	176 (20.3)
45～54才		50 (12.6)	104 (22.2)	154 (17.8)
59～59才		19 (4.8)	51 (10.9)	70 (8.1)
60才以上		10 (2.5)	20 (4.3)	30 (3.5)
計		397 (100)	469 (100)	866 (100)

(資料：日本手袋工業組合，49年9月，21企業抽出調査)

んど行われていないので、現在ではこれが確実に1ランク高令層に移行してきており、平均年令は高令化している。

この若年労働力の不足は、一般的には手袋業界が「若者に魅力のある職場でない」ことや「企業のイメージが悪い」ことによるものと思われるが、地元高校女生徒の就職予定者の意識調査でも、志望職種は事務系をあげる者が圧倒的に多く、手袋工場への就職については明確な拒絶反応を示す者が多かった。そして、このことは地元高校卒業者の就職先をみてもはっきり表われており、就職者数男子344人、女子242人のうち繊維関係製造部門へ就職した者は男子5人(1.5%)、女子16人(6.6%)で、手袋業へ就職した者はこの一部といった状況である。

図表21 大川郡内高校卒業者職種別就職者数

性別	卒業者数	就職者数	事務部門	販売部門	製造部門	うち繊維関係	その他
男	657	344(100)	74(21.5)	107(31.1)	63(18.3)	5(1.5)	100(29.1)
女	510	242(100)	149(60.3)	33(13.6)	23(9.5)	16(6.6)	40(16.5)
計	1,167	586(100)	210(35.8)	140(23.9)	86(14.7)	21(3.6)	140(23.9)

(注) 手袋は繊維関係に含まれる。

(資料：文部省「卒業後の状況調査」51年5月)

4. 産地企業の概要

(1) 企業類型

当産地は工場生産中心の単純な産地ではなく、下請生産企業や問屋の企業をも含む多様な企業から構成されているが、およそ次の三類型に分けることができる。

- ① 製造業（メーカー）：自社商品を企画して、自社工場で製造しまたは下請企業に加工させ、これを問屋または小売店に販売する。自社製品の製造・販売を行うメーカーである。
- ② 製造卸売業：純粋な問屋は当産地には存在せず、大手メーカーが問屋機能を吸収して、製造卸売業者となっている。すなわち、自社製品および下請企業の加工品に加えて、他メーカーより商品を購入（仕入）し、取扱商品を増量しあるいは多様化して、問屋または小売店に販売する。
- ③ 下請加工業：自己の商品を持たず、問屋または他のメーカーから依頼を受けて、製造工程の全部あるいは一部を担当し、加工賃を得る。

（注）さらに、この三類型以外に、家庭の主婦等が時間の一部をさいて、家庭内で製造工程の一部を担当し、加工賃を得ている家庭内職者がいる。

日本手袋工業組合員の大半は製造業者であり、製造卸売業者は50社程度と推定される。

(2) 資本金規模別企業数

右の表にみられるように、101～3,000万円の中規模企業が全体の60%強を占め、100万円以下の小規模企業が34%程度を占めており、3,000万円以下の資本金規模の企業が全体の95%とほとんどを占めている。比較的大規模といえる3,001万円以上の企業が残りの5%で12社となっている。

図表22 資本金規模別企業数 昭和52年9月

資 本 金	企業数	構成比
個 人	66社	28.7
100 万 円 以 下	12	5.2
101 ～ 500 万 円	71	30.9
501 ～ 1,000 万 円	31	13.5
1,001 ～ 3,000 万 円	38	16.5
3,001 ～ 5,000 万 円	8	3.5
5,001 ～ 1 億 円	3	1.3
1 億 円 以 上	1	0.4
計	230	100.0

（資料：日本手袋工業組合）

(3) 従業員規模別企業数

従業員規模別にみると、右の表のごとくになり、20名以下の小規模企業が全体の65%と圧倒的に多く、次いで21~100名の中規模企業が33%を占め、100名以上の企業はわずか6社（3%弱）となっている。

図表23 従業員規模別企業数

昭和54年8月

従業員数	企業数	構成比
1 ~ 5 人	45社	20.7
6 ~ 20	96	44.2
21 ~ 50	54	24.9
51 ~ 100	16	7.2
101 ~ 300	6	2.8
計	217	100.0

(資料：日本手袋工業組合)

(4) 輸出・内需別企業数

次表にみられるように、輸出専業企業はわずかに13社（5.8%）にすぎず、輸出内需兼業42社（18.8%）を加えても24.7%と全体の半にとどまり、かつての「輸出産地」の面影はない。

図表24 輸出・内需別企業数

昭和50年度

輸出・内需別	企業数	構成比
輸出専業	13社	5.8%
輸出・内需兼業	42	18.8
内需専業	168	75.3
計	223	100

(資料：日本手袋工業組合)

また、部門別にみると、輸出企業の多いのは合皮手袋と革手袋部門である。前者では輸出専業・輸出内需兼業、内需専業がほぼ同数であるのに対して、後者では輸出専業は少なく、輸出内需兼業がやや多く、内需専業が圧倒的多数となっており、それぞれの部門の特色を示している。

図表25 輸出・内需別・部門別企業数

昭和50年度

	縫手袋	革手袋	編手袋	合皮手袋	ニット	計
輸出専業	4	6	0	16	0	26
輸出内需兼業	5	26	1	13	4	49
内需専業	60	72	25	16	53	226
計	69	104	26	45	57	301

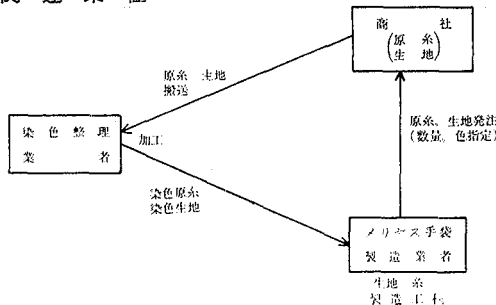
(注) 2部門以上にまたがる企業は重複記入している。

(資料：日本手袋工業組合)

5. 関連業種

当産地のメリヤス手袋生産の発展に伴い、綿状繊維・糸染色整理業者およびメリヤス・レース染色業者が自鳥町に立地し、染色原糸および染色生地を手袋製造業者に供給している。これらの業者は当産地のメリヤス手袋およびニット製品の原糸、生地の染色加工を専業とし、手袋製造業者とは有機的な分業関係を保ち、後者の生産コストの低減および設備投資の省力化に寄与する一方、製品の色調、デザイン等、品質決定のうえで重要な役割を果たす外、その立地上の近接性は輸送費の節減をも可能にしており、後者の存立上不可欠の重要性をもっている。また、当産地の手袋染色原糸・染色生地の供給はほとんどこれらの関連事業者に依存しており、その関連業者の加工賃収入に占めるその比重は極めて大きく、手袋製造業の不振は、必然的にこれら関連事業者の不振につながることはもちろん、その加工賃依存の体質および需要開拓の困難性から、より強いインパクトを受けている。

図表26 関連業種



〔追記〕 本稿の調査・執筆にあたっては、日本手袋工業組合（三好富夫理事長）および香川県企業振興課（とくに小野鈴雄副主幹，合田武勝係長，清水勉主任主事）の御協力を得ました。ここに銘記して心からお礼を申し上げたい。

白鳥地域手袋・カバン袋物・ニット製品産地の概況

(別表2) 手袋等出荷数量及び金額の推移 単位：数量=千ダース 金額 万円

	40年度		45年度		46年度		47年度		48年度		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
縫手袋	輸出	655	78,602	430	73,021	267	49,375	340	67,958	207	24,791
	内地	1,350	176,000	3,460	307,260	2,940	307,380	3,700	370,000	3,790	492,500
	計	2,005	254,602	3,890	380,281	3,207	356,755	4,040	437,958	3,997	517,291
革手袋	輸出	200	110,000	430	822,500	400	320,000	420	363,000	340	305,500
	内地	580	313,200	510	379,440	460	349,600	547	530,000	702	782,450
	計	780	423,200	940	701,940	860	669,600	967	893,000	1,042	1,087,950
手巾合	輸出	1,758	263,737	1,500	315,000	1,350	337,500	936	265,000	620	201,200
	内地	400	48,000	330	49,500	350	59,500	284	62,000	250	60,000
	計	2,158	311,737	1,830	364,500	1,700	397,000	1,220	327,000	870	261,200
編手袋	輸出	181	28,946	40	7,240	22	4,016	10	1,770	27	3,197
	内地	350	52,500	313	53,125	404	84,875	375	78,750	390	98,280
	計	531	81,446	353	60,365	425	88,891	385	80,520	417	101,477
カバン袋物	内地	—	—	—	—	—	—	—	—	120	132,000
	輸出	194	23,310	189	32,049	391	46,920	192	16,000	212	14,827
	内地	1,000	110,000	1,555	233,160	1,530	244,800	1,570	470,000	3,333	708,000
計	1,194	133,310	1,744	265,209	1,921	291,720	1,762	486,000	3,545	722,827	
輸出合計	2,988	504,595	2,588	749,810	2,430	757,811	1,898	713,728	1,405	549,515	
内地合計	3,680	699,700	6,168	1,022,485	5,684	1,046,155	6,476	1,510,750	8,585	2,273,230	
総計	6,668	1,204,295	8,756	1,772,295	8,114	1,803,966	8,374	2,224,478	9,990	2,822,745	

(注) カバン・袋物は47年度までは革手袋に含まれている。

	49年度		50年度		51年度		52年度		53年度		54年度		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
縫手袋	輸出	148	22,159	100	17,084	97	7,751	81	16,245	69	9,166	38	11,298
	内地	3,017	465,500	2,300	474,000	2,417	520,000	2,600	533,250	2,574	506,700	2,672	518,915
計	3,165	487,659	2,400	491,084	2,514	527,751	2,681	549,495	2,643	515,866	2,709	530,213	
革手袋	輸出	318	357,300	231	317,000	327	395,500	337	419,700	318	387,372	117	226,041
	内地	663	797,600	606	798,335	543	786,650	558	779,900	507	772,499	512	843,995
計	981	1,154,900	837	1,115,335	870	1,182,150	896	1,199,600	825	1,159,871	629	1,070,036	
手ピ合 ニール 袋ル皮	輸出	300	105,000	130	52,000	67	38,860	38	24,700	36	22,230	20	14,022
	内地	320	134,400	393	178,980	450	234,000	510	255,000	635	320,675	452	309,620
計	620	239,400	523	230,980	517	272,860	548	279,700	671	342,905	472	323,642	
編手袋	輸出	6	894	4	752	7	670	6	780	4	544	20	3,947
	内地	442	132,700	498	160,852	763	323,375	773	329,455	743	331,600	617	314,840
計	448	133,594	502	161,604	769	324,045	779	330,235	747	332,144	636	318,787	
カバ ン セ ト	内地	125	195,000	65	234,000	98	355,000	100	360,000	105	441,000	110	485,100
	輸出	169	14,861	157	15,700	142	9,918	126	16,379	95	8,696	68	8,890
計	3,319	800,314	3,186	838,722	3,486	1,070,079	3,751	1,011,596	3,195	995,217	3,095	928,496	
輸出合計	940	500,214	673	402,536	639	452,699	589	477,804	523	428,008	262	264,198	
内地合計	7,718	2,510,653	6,891	2,669,189	7,615	3,279,186	7,790	3,252,822	7,659	3,300,970	7,178	3,355,701	
総計	8,658	3,010,867	7,564	3,071,725	8,255	3,731,885	9,379	3,730,626	8,183	3,728,978	7,440	3,619,899	

(資料：日本手袋工業組合)

(別表 3 A) 手袋等出荷数量指数の推移 (45年度=100)

年度		45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
縫手袋	輸出	100	62	79	48	34	28	22	19	16	9
	内地	100	85	107	110	87	66	70	75	74	77
	計	100	82	104	103	81	62	65	69	68	70
革手袋	輸出	100	93	98	79	74	65	76	79	74	27
	内地	100	90	107	137	130	118	106	109	99	100
	計	100	91	103	110	104	94	92	95	87	67
合皮・ニール手袋	輸出	100	90	62	41	20	9	4	3	2	1
	内地	100	106	86	76	97	119	136	155	192	137
	計	100	93	67	48	34	29	28	30	37	26
編手袋	輸出	100	55	25	68	15	10	18	15	10	50
	内地	100	129	120	125	141	159	243	244	247	197
	計	100	121	109	118	127	142	218	221	212	180
カバン・袋物 カバン・製品 ニット 及	内地	—	—	—	100	104	54	81	83	87	92
	輸出	100	207	102	112	89	83	75	67	50	36
	内地	100	98	101	214	203	195	215	228	199	181
	計	100	110	101	203	190	183	200	194	183	165
輸出	合計	100	94	73	54	36	26	25	23	20	10
内地	合計	100	92	105	139	125	112	123	126	124	116
総	計	100	92	95	114	99	86	94	95	93	85

(注) 「カバン・袋物」は48年度を100とする。
45～47年度までは「革手袋」の内地に「カバン・袋物」が含まれている。

(別表 3 B) 手袋等出荷数量指数の推移 (48年度=100)

年度		48	49	50	51	52	53	54
縫手袋	輸出	100	71	48	47	39	33	18
	内地	100	80	61	64	69	68	71
	計	100	79	60	63	67	66	68
革手袋	輸出	100	94	83	96	99	94	34
	内地	100	94	86	77	79	72	73
	計	100	94	85	83	86	79	60
合皮・ニール手袋	輸出	100	48	21	11	6	6	3
	内地	100	128	157	180	204	254	181
	計	100	71	60	59	63	77	54
編手袋	輸出	100	22	15	26	22	15	74
	内地	100	113	128	197	198	191	158
	計	100	107	120	184	187	179	153
カバン・袋物 カバン・製品 ニット 及	内地	100	104	54	81	83	87	92
	輸出	100	80	74	67	59	45	32
	内地	100	95	91	100	97	93	84
	計	100	94	90	98	95	90	81
輸出	合計	100	67	48	45	42	37	19
内地	合計	100	90	82	89	91	89	84
総	計	100	87	76	83	94	82	74

(資料：日本手袋工業組合)

(別表4A) 手袋等出荷金額指数の推移 (45年度=100)

		年度	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
縫手袋	輸出	100	68	93	34	30	23	11	22	13	15	
	内地	100	100	120	160	152	154	169	174	165	169	
	計	100	94	115	136	128	129	139	144	136	139	
革手袋	輸出	100	99	113	95	111	98	123	130	120	27	
	内地	100	92	140	206	210	210	207	205	203	222	
	計	100	95	127	154	164	158	168	170	165	152	
合皮・ビニール手袋	輸出	100	107	84	64	33	17	12	8	7	4	
	内地	100	120	125	121	272	362	473	515	648	625	
	計	100	109	90	72	66	63	75	77	94	89	
編手袋	輸出	100	55	25	44	12	11	9	11	8	55	
	内地	100	160	148	185	250	303	609	620	624	593	
	計	100	147	133	168	221	268	537	547	550	528	
カバン・袋物 カビ製品 ニット 及	内地	—	—	—	100	147	177	268	272	334	367	
	輸出	100	146	50	46	46	49	31	51	27	28	
	内地	100	105	202	304	337	353	455	427	398	379	
	計	100	110	183	273	302	316	403	381	353	336	
輸出	合計	100	101	95	73	67	54	60	64	57	35	
内地	合計	100	102	148	222	246	261	321	318	323	328	
総	計	100	102	126	159	170	173	211	210	210	204	

(注) 「カバン・袋物」は48年度を100とする。(資料: 日本手袋工業組合)
45~47年度までは「革手袋」の内地に「カバン・袋物」が含まれている。

(別表4B) 手袋等出荷金額指数の推移 (48年度=100)

		年度	48	49	50	51	52	53	54
縫手袋	輸出	100	89	69	31	66	37	46	
	内地	100	95	96	106	108	103	105	
	計	100	94	95	102	106	100	102	
革手袋	輸出	100	117	104	129	137	127	74	
	内地	100	102	102	101	100	99	108	
	計	100	106	103	109	110	107	98	
合皮・ビニール手袋	輸出	100	52	26	19	12	11	7	
	内地	100	224	298	390	425	534	516	
	計	100	92	88	104	107	131	124	
編手袋	輸出	100	28	24	21	24	17	95	
	内地	100	135	164	329	335	337	320	
	計	100	132	159	319	325	327	314	
カバン・袋物 カビ製品 ニット 及	内地	100	147	177	268	272	334	367	
	輸出	100	100	106	67	110	59	60	
	内地	100	111	116	150	141	131	125	
	計	100	111	116	148	140	130	123	
輸出	合計	100	91	73	82	87	78	48	
内地	合計	100	110	117	144	143	145	148	
総	計	100	107	109	132	132	132	128	

(資料: 日本手袋工業組合)

<金額>

品 種 \ 年 度	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
縫 手 袋	9.7	6.5	9.5	4.5	4.4	4.2	1.7	3.4	2.1	4.3
革 手 袋	43.0	42.2	50.9	55.6	71.4	78.8	77.4	87.8	88.4	85.5
合皮・ビニール手袋	42.0	44.5	37.1	36.6	21.0	12.9	8.6	5.2	5.2	5.3
編 手 袋	1.0	0.5	0.2	0.6	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	1.5
カ バ ン・袋 物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カバー及びニット製品	4.3	6.2	2.2	2.7	3.0	39.0	2.2	3.4	2.0	3.4
輸 出 合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(資料：日本手袋工業組合)

(別表7)

総出荷に占める輸出構成比の推移

<数量>

品 種 \ 年 度	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
縫 手 袋	4.9	3.3	4.1	2.1	1.7	1.3	1.2	1.0	0.8	0.5
革 手 袋	4.9	4.9	5.2	3.4	3.7	3.7	4.0	4.0	3.9	1.6
合皮・ビニール手袋	17.1	16.6	11.2	6.2	3.5	1.7	0.8	0.5	0.4	0.2
編 手 袋	0.5	0.3	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3
カ バ ン・袋 物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カバー及びニット製品	2.2	4.8	2.3	2.1	2.0	2.1	1.7	1.5	1.2	0.9
輸 出 合 計	29.5	30.0	22.7	14.1	10.9	8.9	7.7	7.0	6.4	3.5
総 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

<金額>

品 種 \ 年 度	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
縫 手 袋	4.1	2.7	3.1	0.9	0.7	0.6	0.2	0.4	0.2	0.3
革 手 袋	18.2	17.7	16.3	10.8	11.9	10.3	10.6	11.3	10.4	6.2
合皮・ビニール手袋	17.8	18.7	11.9	7.1	3.5	1.7	1.0	0.7	0.6	0.4
編 手 袋	0.4	0.2	0.1	0.1	0.03	0.02	0.02	0.02	0.01	0.1
カ バ ン・袋 物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カバー及びニット製品	1.8	2.6	0.7	0.5	0.5	0.5	0.3	0.4	0.2	0.2
輸 出 合 計	42.3	42.0	32.1	19.5	16.6	13.1	12.1	12.8	11.5	7.2
総 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(資料：日本手袋工業組合)

(別表 8) 品種別出荷に占める輸出比率の推移

<数量>

(%)

品 種 \ 年 度	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
縫 手 袋	11.1	8.3	8.4	5.2	4.7	4.2	3.9	3.0	2.6	1.4
革 手 袋	45.7	46.5	43.4	32.6	32.4	31.7	37.6	37.6	38.5	18.6
合皮・ビニール手袋	82.0	79.4	76.7	71.3	48.4	24.9	13.0	6.9	5.4	4.2
編 手 袋	11.3	5.2	2.6	6.5	1.3	0.8	0.9	0.8	0.5	3.1
カ バ ン・袋 物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カパー及びニット製品	10.8	20.4	10.9	6.0	5.1	4.9	4.1	3.7	3.0	2.4

<金額>

(%)

品 種 \ 年 度	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
縫 手 袋	19.2	13.8	15.5	4.8	4.5	3.5	1.5	3.0	1.8	2.1
革 手 袋	45.9	47.8	40.6	28.1	30.9	28.4	33.5	35.0	33.4	21.1
合皮・ビニール手袋	86.5	85.0	81.0	77.0	43.9	22.5	14.2	8.8	6.5	4.3
編 手 袋	12.0	4.5	2.2	3.2	0.7	0.5	0.2	0.2	0.2	1.2
カ バ ン・袋 物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カパー及びニット製品	12.1	16.1	3.3	2.1	1.9	1.9	0.9	1.6	0.9	1.0

(資料：日本手袋工業組合)

(別表θ) 品目別家計消費支出推移(一世帯当り年間支出)

	40年		45年		50年		53年		54年		54/40比
	金額 円	比 %	金額 円	比 %	金額 円	比 %	金額 円	比 %	金額 円	比 %	
支出合計	580,753	100	954,369	100.1	1,895,786	100.2	420,575	100.2	2,576,363	100	4.44
食料費	232,305	40.0	346,145	36.3	649,887	34.2	789,832	32.6	816,397	31.7	3.51
住居費	54,064	9.3	102,484	10.7	187,458	9.9	224,115	9.3	243,310	9.4	4.50
光熱費	26,175	4.5	37,263	3.9	76,570	4.0	101,627	4.2	105,585	4.1	4.03
被服費	70,185	12.1	108,807	11.4	210,347	11.1	251,793	10.4	262,021	10.2	3.73
雑費	198,024	34.1	359,670	37.7	771,525	40.7	1,053,207	43.5	1,149,050	44.6	5.80
保健衛生	32,341	5.6	51,666	5.4	96,063	5.1	125,975	5.2	134,404	5.2	4.16
交通通信	14,786	2.5	28,752	3.0	57,348	3.0	94,920	3.6	101,441	3.9	6.86
教育等	32,906	5.7	42,928	4.5	84,199	4.4	114,406	4.7	122,811	4.8	3.73
交際・入場 料・入場代	3,833	0.7	5,019	0.5	7,008	0.4	10,258	0.4	11,564	0.5	3.02
他の教養娯楽用品	8,265	1.4	18,378	1.9	40,219	2.1	46,468	1.9	51,762	2.0	6.26
他の教養娯楽費	17,316	3.0	36,151	3.8	81,960	4.3	117,962	4.9	130,669	5.1	7.55
その他	88,577	15.3	176,776	18.5	404,728	21.3	543,218	22.4	596,399	23.2	6.73

(資料) 家計調査年報

(注) 「教育等」は、「教育」、「文房具」、「印刷物」を含む。
 「他の教養娯楽用品」は、運動用品、カメラ、がん具、レコード等をいう。
 「他の教養娯楽費」は、旅行費、信印費、けいこ事月謝類をいう。

(別表10) 産地別・品目別出荷状況(数量) (千双)

府県名	衣 服 用 手 袋				作 業 用 手 袋		
	メリヤス 縫手袋	メリヤス 編手袋	革手袋	計	メリヤス 手袋	革手袋	計
北 海 道					52,821		52,821
山 形					6,858		6,858
東 京			572	572	2,562	2,146	4,708
岐 阜					6,335		6,335
静 岡					11,279		11,279
愛 知		6,165		6,165	120,559	322	120,881
三 重					6,998		6,998
大 阪	1,063			1,063	15,475		15,475
兵 庫		133	279	412	9,150	18,691	27,841
奈 良			41	41	2,509	2,391	4,900
和 歌 山					37,663		37,663
岡 山					6,018	771	6,789
広 島					20,383		20,383
徳 島					5,806		5,806
香 川	18,066	11,939	12,427	42,432	16,324	6,059	22,383
福 岡					7,933		7,933
佐 賀					6,366		6,366
(香川県シェア)	(91.4)	(59.9)	(89.0)	(79.1)	(4.4)	(19.0)	(5.5)
全 国 計	19,759	19,938	13,960	53,657	371,874	31,861	403,735

(資料：昭和53年工業統計品目編)

(別表11) 産地別・品目別出荷状況(金額) (百万円)

品目別 府県名	衣服用手袋				作業用手袋		
	メリヤス 縫手袋	メリヤス 編手袋	革手袋	計	メリヤス 手袋	革手袋	計
北海道					371		371
山形					504		504
東京都			395	395	167	368	535
岐阜					463		463
静岡					1,031		1,031
愛知		768		768	8,237	99	8,336
三重					769		769
大阪	314			314	1,152		1,152
兵庫		15	191	206	636	3,813	4,449
奈良			93	93	160	593	753
和歌山					2,567		2,567
岡山					436	202	638
広島					2,531		2,531
徳島					799		799
香川	5,576	3,091	10,464	19,131	1,677	1,118	2,795
福岡					804		804
佐賀					638		638
(香川県シェア)	(92.8)	(73.4)	(89.3)	(87.2)	(6.5)	(17.2)	(8.7)
全国計	6,008	4,209	11,718	21,935	25,771	6,512	32,283

(資料：昭和53年工業統計品目編)

(別表12)

「カバン・袋物」主産地別出荷額の推移

(百万円)

年	40	45	48	50	52	53	53/45
府県名							
茨城	84	1,190	1,599	4,293	4,974	5,305	4.46倍
埼玉	1,060	1,839	4,342	4,879	9,239	11,290	6.14
千葉	946	2,909	3,462	9,405	9,742	9,132	3.14
東京	21,313	41,313	54,265	71,350	79,286	83,028	2.01
愛知	2,136	4,035	5,584	6,602	9,951	11,270	2.79
京都	1,051	2,595	4,014	5,241	7,261	9,399	3.62
大阪	10,541	17,864	32,417	40,824	50,525	48,460	2.71
兵庫	5,476	9,488	13,752	18,206	24,126	26,901	2.84
岡山	2,001	2,223	2,384	2,095	2,325	2,332	1.05
香川	68	352	1,747	2,603	3,256	3,788	10.76
(上位4県シェア)	(83.7)	(77.7)	(75.3)	(73.2)	(70.8)	(69.0)	—
(香川県シェア)	(0.1)	(0.4)	(1.2)	(1.4)	(1.4)	(1.5)	—
全国計	47,152	93,529	140,857	187,053	231,504	245,739	2.25

(資料：工業統計品目編)

(別表14) 「横編メリヤス外衣」主産地別出荷額の推移 (百万円)

年	35		40		45		52		53		53/45	
府県名												
山形	464	3,264	⑤ 10,189	③ 26,820	⑤ 24,711	2.43倍						
福島	325	3,596	7,737	19,044	19,788	2.56						
群馬	④ 1,255	⑤ 4,052	8,762	14,755	13,182	1.50						
東京都	① 8,726	① 14,874	② 27,855	④ 26,405	④ 25,220	0.91						
新潟	⑤ 1,044	④ 4,530	③ 16,983	② 41,172	② 39,769	2.34						
長野	18	1,470	3,307	9,570	9,269	2.80						
富山	278	2,129	3,591	6,467	6,956	1.94						
山梨	957	2,205	6,285	17,069	16,054	2.55						
愛知	③ 2,200	③ 5,979	④ 15,781	⑤ 21,101	③ 25,769	1.63						
大阪	② 6,609	② 9,623	① 30,652	① 42,514	① 41,296	1.35						
(上位5県シェア)	(81.2)	(63.1)	(61.8)	(69.8)	(60.4)							
全国計	24,424	61,903	164,064	265,074	259,453	1.58						

(注) ○内数は順位

(資料: 工業統計品目編)

(別表15) 「横編メリヤス下着」主産地別出荷額の推移 (百万円)

年	40		45		48		50		52		53		53/45	
府県名														
福島	⑤ 85	108	—	⑤ 603	673	⑤ 909	8.42倍							
東京都	② 1,627	② 1,481	④ 901	507	⑤ 961	④ 1,227	0.83							
愛知	④ 873	③ 1,417	③ 1,436	④ 850	④ 1,160	793	0.56							
大阪	① 2,326	① 4,895	① 4,568	① 8,039	① 7,373	① 8,068	1.65							
兵庫	③ 935	⑤ 570	⑤ 845	③ 983	③ 2,308	② 2,077	3.64							
奈良	63	④ 892	300	458	480	333	0.37							
香川	12	417	② 1,437	② 1,601	② 2,701	③ 1,708	4.10							
(香川県シェア)	(0.2)	(3.3)	(9.2)	(8.2)	(12.6)	(9.3)								
全国計	6,975	12,751	15,679	19,415	21,462	18,338	1.44							

(注) ○内数は順位

(資料: 工業統計品目編)

(別表16) 「横編メリヤス外衣」主要地別・品目別出荷額 (百万円)

府県名	品目	男子用	婦人用	少年少女用	計
宮城		2,950	1,000	—	3,950
山形		938	③ 23,773	—	⑤ 24,711
福島		⑤ 3,817	⑤ 15,865	106	19,788
栃木		483	5,669	68	6,220
群馬		667	12,038	477	13,182
東京		③ 7,345	④ 17,184	691	④ 25,220
山梨		636	6,113	② 9,305	16,054
長野		1,269	7,186	814	9,269
新潟		② 9,404	① 29,971	394	② 39,769
富山		2,095	508	③ 4,353	6,956
愛知		④ 6,671	7,589	① 11,509	③ 25,769
大阪		① 14,378	② 24,967	⑤ 1,951	① 41,296
兵庫		574	3,097	—	3,671
和歌山		566	461	—	1,027
(上位5県シェア)		(74.1)	(66.3)	(85.1)	(60.4)
香川		—	975	④ 2,280	⑭ 3,255
(香川県シェア)		(—)	(0.6)	(6.6)	(1.3)
全国計		56,193	168,694	34,566	259,453

(資料：昭和53年工業統計品目編)

(別表17) 「横編メリヤス下着」主要地別・品目別出荷額 (百万円)

品目 府県名	男子用	婦人用	少年少女用	計
福 島	③ 357	⑤ 552	—	⑤ 909
東 京	⑤ 234	③ 993	—	④ 1,227
奈 良	176	157	—	333
愛 知	④ 260	332	④ 201	793
大 阪	① 4,720	① 2,106	① 1,242	① 8,068
兵 庫	② 500	④ 833	② 744	② 2,077
香 川	194	② 1,135	③ 379	③ 1,708
徳 島	—	449	—	449
(上位5県シェア)	(78.0)	(71.5)	(95.3)	(76.3)
(香川県シェア)	(2.5)	(14.4)	(14.1)	(9.3)
全 国 計	7,782	7,863	2,693	18,338

(資料：昭和53年工業統計品目編)

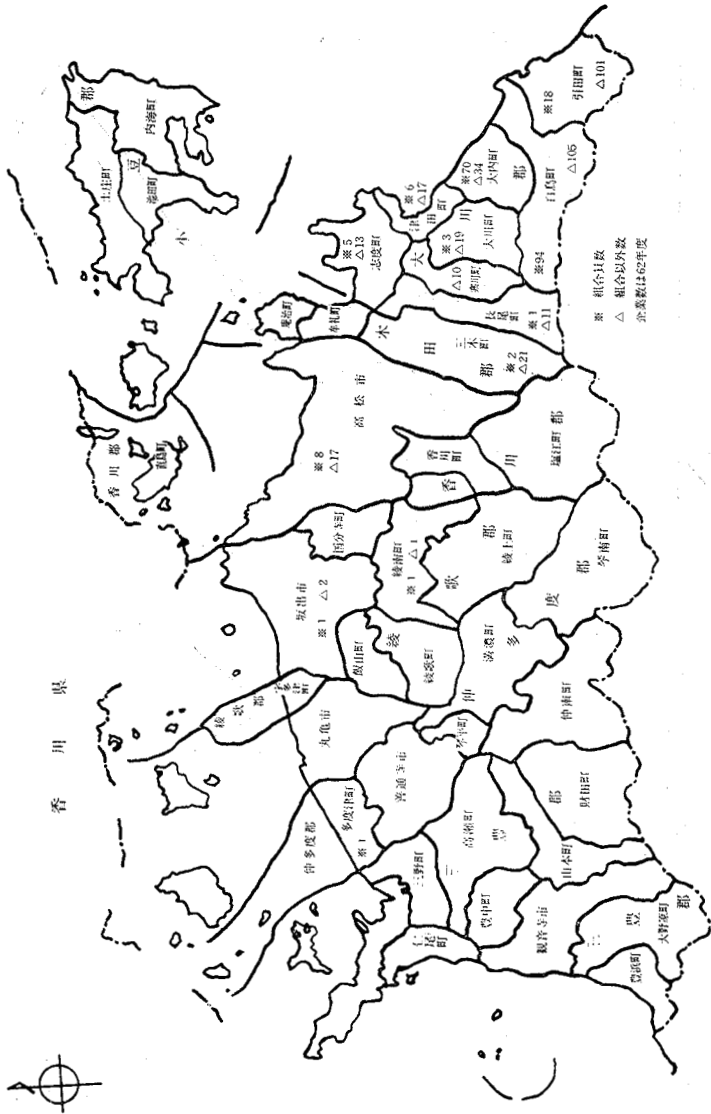
(別表18) 手袋輸入金額の推移 (千円)

年	品目	ゴム製手袋 (毛皮付等)	革製手袋 (毛皮付等)	革製手袋 (その他)	野球用の グローブ ミット	その他の 運動用 手袋	編み上げ た綿 製手袋	縫製した 綿製手袋	編み上げ た他の 手袋	縫製し たその 他の 手袋	メリヤス編 又はクロセ 編み以外の 手袋
1965(40)		8,846	111,673		40,369		54,349				21,492
66		7,683	798	47,738	76,237		59,973				5,003
67		27,889	153	75,107	75,107		110,928				8,153
68		40,498	1,806	98,067	56,556		169,655				1,699
69		33,848		104,528	97,369		118,982		63,471		2,292
1970(45)		105,710	1,143	122,868	213,780		222,622		45,934		8,745
71		148,326	1,881	268,591	115,344		456,084		184,184		17,712
72		155,518	28,392	232,177	190,729		497,222		196,840		17,712
73(48)		235,549	1,964	818,150	444,108		959,255		166,728		38,536
74		636,099	59,650	2,150,476	412,698	341,873	1,201,616		371,782		123,177
75(50)		227,463	57,979	778,106	987,886	250,243	672,480		651,880		30,456
76		450,963	43,122	999,718	915,138	214,423	276,210	768,123	1,295,236	136,534	63,402
77		708,266	62,814	1,415,608	1,236,501	186,311	314,234	1,139,609	1,847,076	217,611	90,277
1978(53)		905,256	57,818	1,815,709	1,149,198	423,386	329,173	1,162,640	1,696,317	442,699	105,032
1979(54)		1,416,332	85,390	2,571,397	1,022,762	657,253	491,958	1,548,050	1,813,205	871,289	93,135

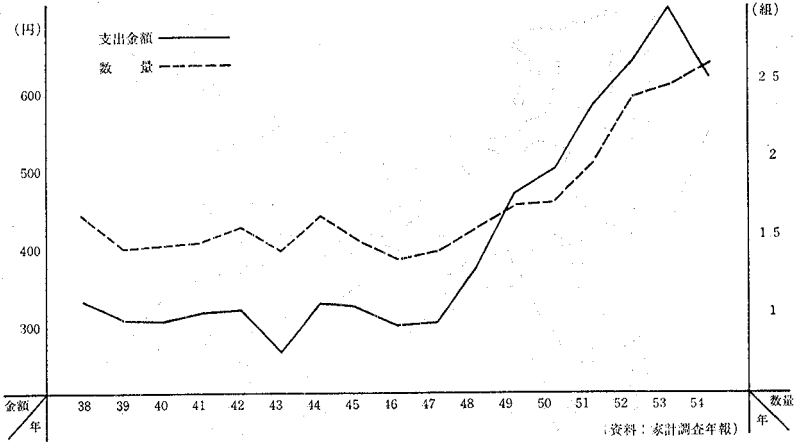
白鳥地域手袋・カバン袋物・ニット製品産地の概況

(別図1)

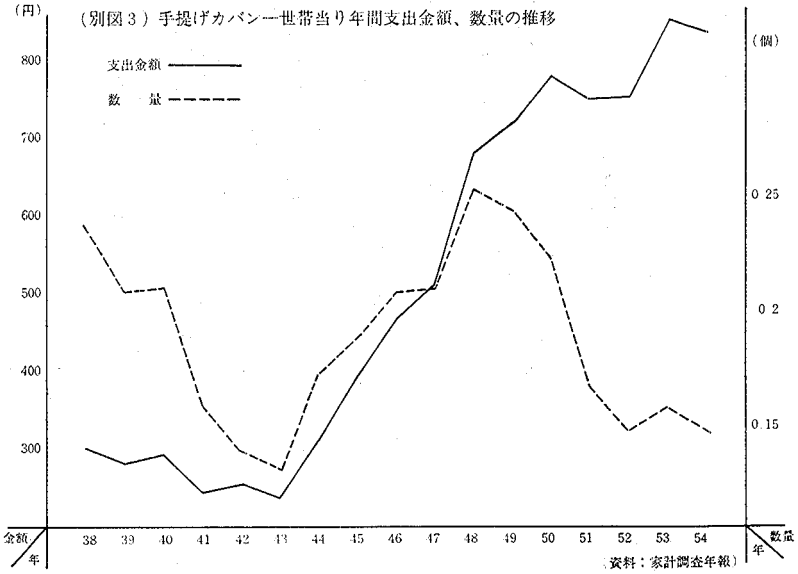
産地中小企業の分布状況



(別図2) 手袋一世帯当り年間支出金額、数量の推移

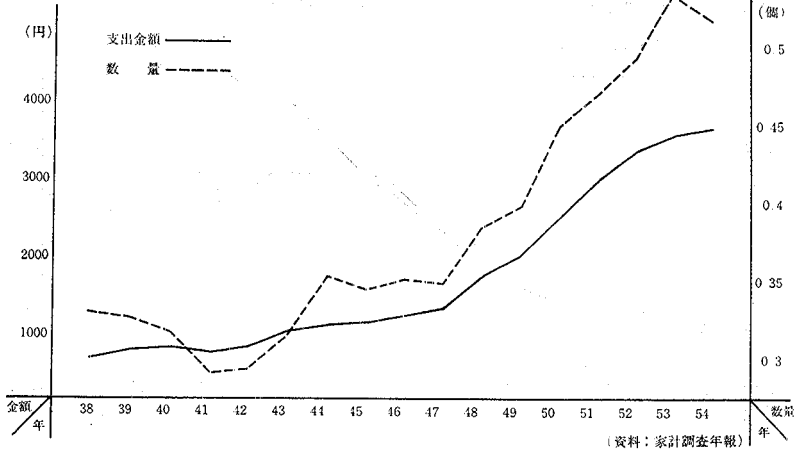


(別図3) 手提げカバン一世帯当り年間支出金額、数量の推移

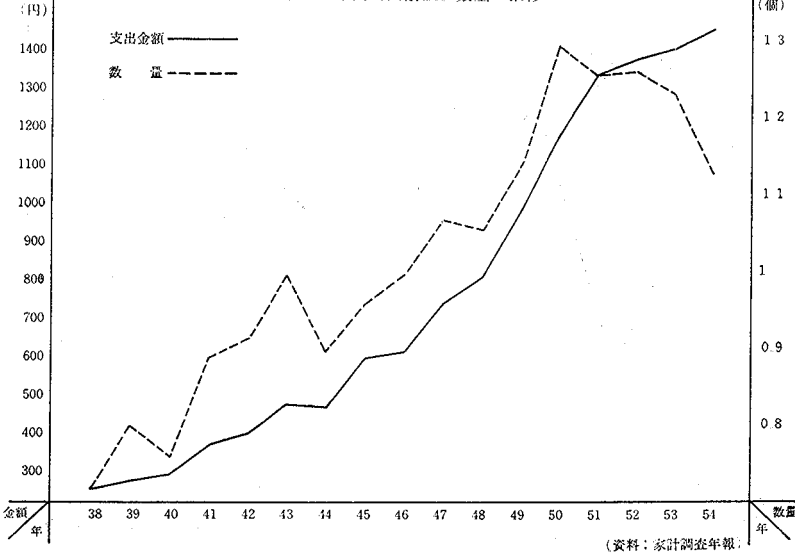


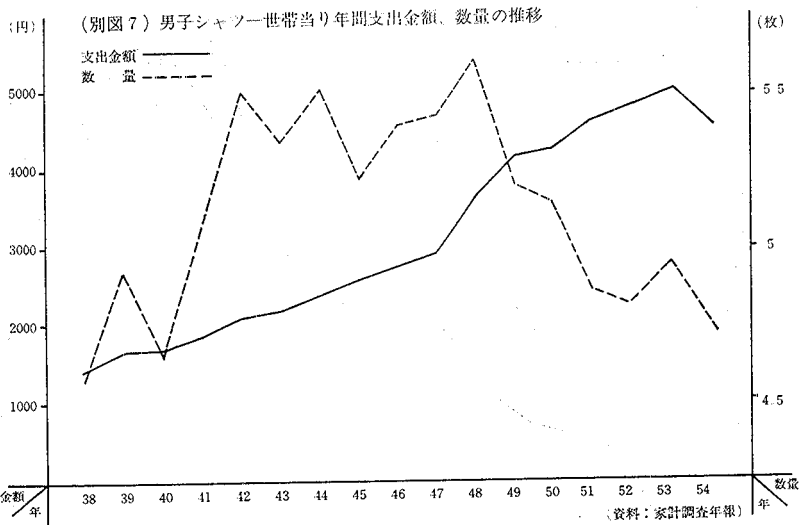
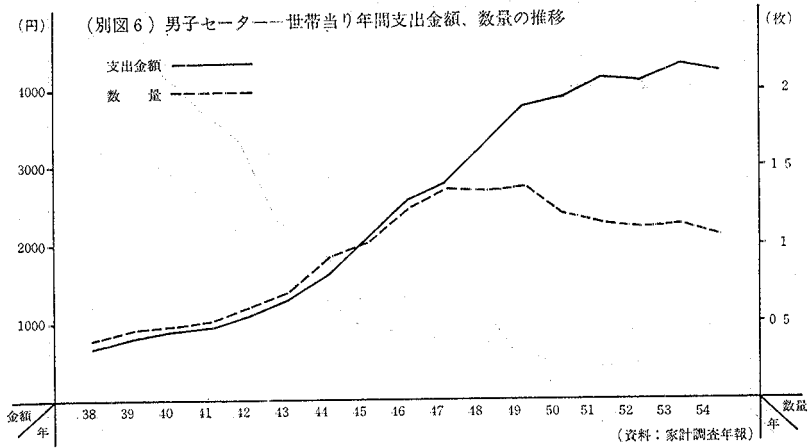
白鳥地域手袋・カバン袋物・ニット製品産地の概況

(別図4) ハンドバック一世代当り年間支出金額、数量の推移

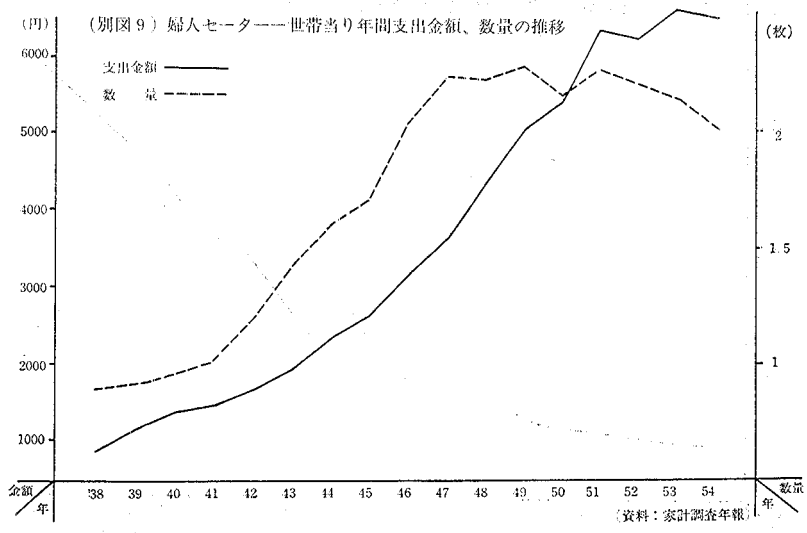
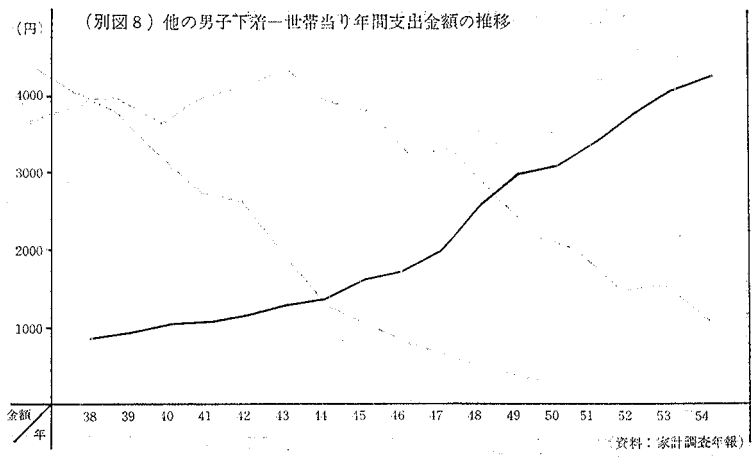


(別図5) 他のバック一世代当り年間支出金額、数量の推移

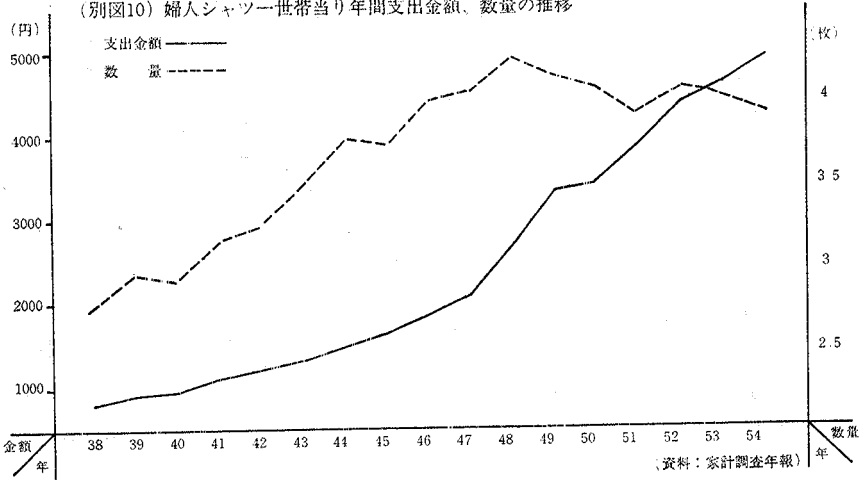




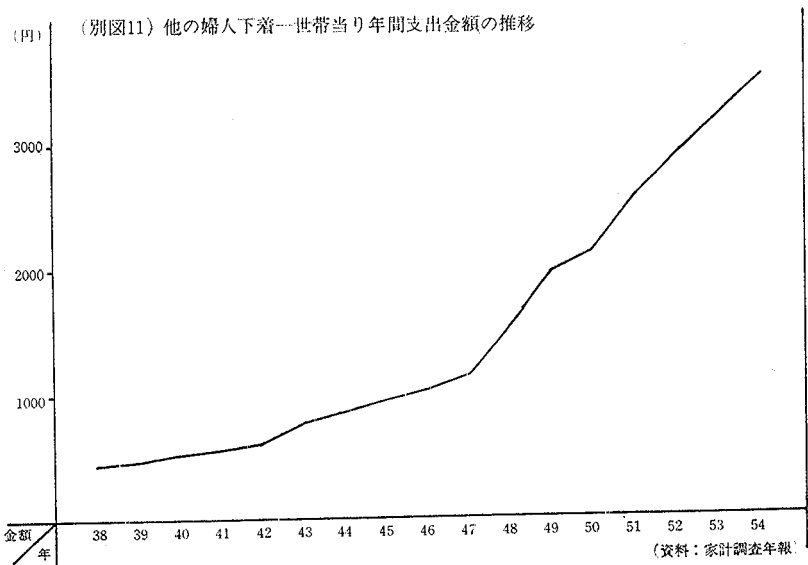
白鳥地域手袋・カバン袋物・ニット製品産地の概況



(別図10) 婦人シャツ一世代当り年間支出金額、数量の推移



(別図11) 他の婦人下着一世帯当り年間支出金額の推移



白鳥地域手袋・カバン袋物・ニット製品産地の概況

